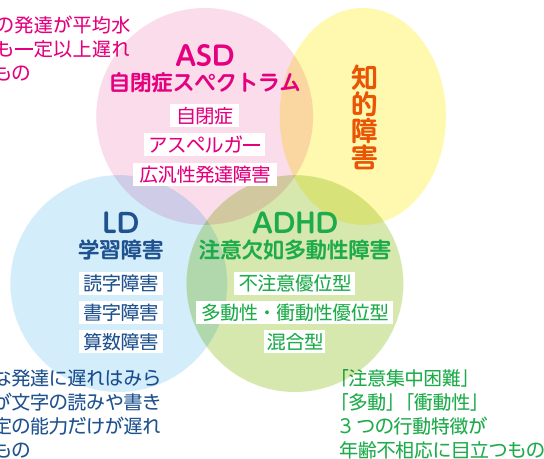


## 主な発達障害の分類と特性

社会性の発達に平均水準よりも一定以上遅れているもの



全体的な発達に遅れはみられないが文字の読みや書きなど特定の能力だけが遅れているもの

【注意集中困難】  
【多動】  
【衝動性】  
3つの行動特徴が年齢不相応に目立つもの

### その他

#### ■トゥレット症候群

複数の運動や音声チックが続く重症なチック障害。

#### ■吃音

一般的に「どもる」話し方の障害で、滑らかに話すことが年齢等に比して不相応に困難な状態。

#### ■発達性協調運動障害

手と目、手と足などの個別の動きを一緒に行う協調運動が、不正確、困難な障害。

発達障害であることは目に見えないため、周囲から理解されにくい障害です。車いすや松葉杖を使う人のように困っていることが明確でなく、周囲も本人も、実は根底に発達障害があると気付いていないことがあります。

発達障害の診断を受けることで、そのような誤解や理解不足の軽減につながります。

### ヘルプマーク



発達障害など配慮や援助を必要とすることが外見からは分かりにくい場合に、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目指して作成されました。お住まいの市町村や、県障害福祉課などで配布されています。

## 二次障害への対応

発達障害の特性について周囲の理解がないと、失敗や叱責によって傷つく体験が続いてしまいます。そうしたストレスの高まりや自己肯定感（自分自身の価値や存在意義を肯定できる感情）の低下によって、精神的な崩れや問題行動等につながることがあります。

誰でもうまくいかないことが続くと自暴自棄になることはありますが、発達障害の人の場合、その理解のされにくさによって傷つく可能性が一段と高くなります。



### 支援のポイント

- ★特性の理解（得意なこと、苦手なことを知る）
- ★自分自身と周囲の理解（特性や支援の必要性を自分で理解し、周囲にも知ってもらう）
- ★対処方法や工夫の検討（どんな支援や工夫があれば苦手が軽減するか考え試してみる）
- ★本人に適した環境設定（安心して過ごせる環境を整えていく）

## 医療機関を受診するときは

現在お困りの様子だけでなく、小さい頃からの様子やエピソードなどが大切な情報になります。母子手帳や当時の成績表を持参したり、出来事をメモにまとめるなどの準備があるとスムーズな診察につながります。

県内で発達障害の診察が可能な医療機関の一覧は「秋田県発達障害支援ハンドブック」に掲載されています。このハンドブックは、ふきのとう秋田のホームページ【<https://airc.or.jp/fukinotou/f-top.html>】にも掲載しています。

● 作成・お問合せ先 ●

秋田県発達障害者支援センター  
ふきのとう秋田

〒010-1409 秋田市南ケ丘 1-1-2 TEL.018-826-8030

## 正しく知りたい発達障害②

### 学齢期



## 発達障害とは

- ◎発達障害は、生まれつきの脳の働きや発達のアンバランスさによって、普段の生活に支障が出てしまうことを言います。
- ◎本人の努力不足や保護者の養育によって起こるものではありません。
- ◎早い時期から周囲の理解が得られ、その人に合った適切な支援や環境の調整が行われることが大切です。
- ◎発達障害の方の困りごとや苦手さは、人それぞれ異なります。その人が困っていることを知る事が第一歩です。
- ◎感じ方や考え方の違い、できないことを「努力不足」と決めつけず、その背景にあるものを探ってみましょう。
- ◎発達障害に関する相談先や、診断が可能な医療機関を活用しましょう。

## 発達障害における支援とは

- ◎発達障害は生まれつきのものですので、治療したり完治させたりすることはできません。
- ◎発達障害による特性（その人の苦手なこと）を正しく理解し、必要な支援や対処方法を見つけていくことで、特性による困りごとを軽減させていくことが目標です。
- ◎そういった対処方法を本人や家族など、本人に関わる周囲の人と一緒に考えていくことが、発達障害支援の大きなポイントです。

秋田県発達障害者支援センター  
ふきのとう秋田



# 学齢期

## さまざまな特性の現れ方

### 学校生活

忘れ物が多い  
急に予定が変わると混乱する  
担任の先生やクラス替えなど、  
環境条件で行動が変わりやすい



### 学習

繰返し勉強しても身に付きにくい  
授業中に着席してられない  
教科によって得意、不得意の差が大きい  
丁寧に文字を書けない



### コミュニケーション

ルールを守れない  
人の気持ちを想像できない  
気持ちの切り替えが難しい  
自分の思いを十分に伝えられない



### 遊び

他の子と一緒に遊ばない  
自分の好きなことだけに没頭する  
手先が不器用でハサミの使用などが苦手  
自転車や縄跳びが苦手



### 家庭生活

過度な偏食  
物の整理、部屋の片付けができない  
メディアに没頭してしまう



### 感覚

他の人が気にならない音が苦痛  
大人数の場所が苦手  
寒くても半袖、暑くても長袖で平気  
音など気になって集中できない



## 理解・対応

- 学校などの集団生活の中では、発達障害の特性によって集団に馴染みにくい、疎外につながりやすいことがあります。
- 発達障害の特性によっては、本人なりに頑張っているのに失敗したり、できないことを甘えやわがままと思われ叱責されたりすることが多くあります。
- 発達障害の特性を正しく理解し、必要なサポートや協力を受けることで、安心して過ごせる環境が整っていきます。



### 支援の例

- ★具体的な言葉で説明する
- ★口頭のみでなく、プリントやイラストなどを使って目に見えるかたちで示す
- ★事前に予告してから実施する
- ★不安なときに過ごせる場所を設けておく など

まずは小さな目標を設定し、達成感を得ながら進めていくことが大切です (スモールステップ)

紹介している特性は一例です。また、発達障害でない場合も同様の言動がみられることがあります。

## 発達障害に気づく、相談する

- 学校  
(特別支援教育コーディネーターの先生)
- 教育委員会
- 小児科
- 児童相談所
- 発達障害者支援センターなど

## 教育の中で利用できるサポート

- 特別支援学校についての教育相談や入学
- 特別支援学級や通級指導教室、適応指導教室等の利用
- 生活支援員 (サポーターの先生) の配置
- 合理的配慮  
ユニバーサルデザイン化された授業の実施



### 合理的配慮

合理的配慮とは、障害などがある人の要望を受けて、社会の中にある障壁 (その人にとっての困難な点) を取り除くことです。

同じ発達障害の人であっても、困り事はそれぞれ異なりますので「自分はこれが苦手なので、こういう配慮をしてもらいたい」と発信し、それに対し学校や会社などの社会が対応できるか考えていく必要があります。もちろん要望したニーズが全て受け入れられるというものではなく、受け入れ側にとって配慮をすることが過度な負担になる場合は、配慮の提供が認められないこともあります。

障害のある人と受け入れ側が話し合い、どんな配慮ができるかを探っていくことが大切です。